

令和7年度第1回大阪市地方独立行政法人大阪市博物館機構評価委員会 議事要旨

1 日 時：令和7年7月10日（木）14：00～15：30

2 場 所：大阪歴史博物館 4階 第1研修室

3 出席者：

【委 員】栗原委員、島委員、高瀬委員、谷村委員

【大阪市】経済戦略局 岩田文化部長、平野博物館支援担当課長、尾崎博物館支援担当課長代理 他

4 議 題：

（1）（地独）大阪市博物館機構の令和6事業年度自己評価について

5 議事要旨：

（1）（地独）大阪市博物館機構の令和6事業年度自己評価について

法人（博物館機構）から説明を行った後、中・小項目評価について質疑・審議が行われ、評価委員から意見の申述をいただいた。

〔主な意見〕

- ・ 目標を超える来館者を迎えたことは成果である。
- ・ 館で企画した展覧会で内容に特色のある、良い展覧会を開催している。展覧会の評価については入館者数を指標としているが、内容などを見る定性的な評価も必要だと思う。
- ・ 館の事業説明においては、展覧会の特色等を補足することなどで、活動内容をより分かりやすく示すとよい。
- ・ エビデンスに基づいたマーケティングについて、何をきっかけに来館したのか、興味を持ったのかという入口の分析にも取り組むとよい。
- ・ 「大阪の宝」などの動画については、都市大阪の歴史の中で様々な「宝」が集まってきたメッセージになっており、見せ方も含めて良かった。
- ・ データベース化、オープンデータ化が進み、サイトも見やすくなったことは成果だと思う。一方で、リニューアルや大阪・関西万博など話題にも事欠かない特別な状況だとは思いますが、プロモーションをかけることだけに走らず、実態を重視してほしい。
- ・ ミュージアムショップ、カフェについて、リニューアルオープンした3館もあり、今後、インバウンド客だけでなく、博物館や美術館の関係者にも、面白いと思ってもらえるように進めるとよい。
- ・ 収入の確保については、例えば、商品開発に機構がどのように関わったか、計画に対する達成度などで評価することもできる。定量評価と定性評価の成果が見えにくいのが、計画の段階で目標を数値で表せるものはできる限り数値で示すと評価が明瞭になる。
- ・ 外部資金の獲得について、科研費に10件が新規採択されたことは大変良い。外部収入

を獲得する大きな要素なのでこれからもがんばってもらいたい。

- ・ 国際的な連携及び発信について、せっかく万博をやっているながらこの項目の評価が3点（年度計画通り）であるのは残念であり、評価4点（計画を上回る取り組み）に向けて頑張ることを期待したい。
- ・ 幅広い来館者への支援について、インクルージョンやダイバーシティという観点から、対象を捉える必要があると思う。
- ・ 各館が参加する共同の研究発表会は良い取り組みで、お互いの研究を知ることも研究になるので引き続き進めてもらいたい。大阪の宝、大阪博などの取り組みを積極的に展開していくことで、より一層の連携が進むのではないかな。
- ・ 機構全体としてのまとまりや館同士が連携・対話する工夫について、第1期の評価でコメントした。大阪・関西万博を機にそのリンクができたのはよかったと思うが、もう少し各館が交じり合うような企画がほしかったところであり、これをきっかけに今後期待したい。

6 会議資料

資 料 1 令和6事業年度にかかる業務の実績に関する自己評価について

資 料 2 令和6事業年度の業務実績に関する中・小項目評価

参考資料1 令和6事業年度にかかる業務の実績に関する評価結果小項目評価

参考資料2 地方独立行政法人大阪市博物館機構 令和6年度 事業報告書

参考資料3 地方独立行政法人大阪市博物館機構 令和6年度 財務諸表

参考資料4 地方独立行政法人大阪市博物館機構 令和6年度 決算報告書